

◆キャノン・キャノンマーケティングジャパン：EOS R5で8K撮影した映像がTBSテレビに登場！

2021年1月10日放送 TBS「世界遺産」～4K8K特別篇知床の四季～

キャノンが番組提供しているTBSテレビ「世界遺産」（毎週日曜日18:00から放送）は、“人類共通の財産である世界遺産を最新の技術で記録し、未来に残す”ことを番組コンセプトとして、高精細な映像で世界遺産の魅力を伝えている。

このたび、4Kおよび8Kでの撮影に挑戦した「4K8K特別篇」の第2弾を放送します。今回の撮影の舞台は、北海道の北東部に位置する「知床」。紅葉や流氷など自然豊かな景色や、動物たちの姿を約1年かけて記録した特別篇です。なかでも、フルサイズミラーレスカメラEOS R5で8K撮影した映像は、TBSテレビ初登場。細部まで記録された高精細映像を閲覧できる。

■テーマ：放送 25年スペシャル「4K8K特別篇 知床の四季」

■放送日時：2021年1月10日（日）18:00～18:30

8K撮影像は本編の一部です

※地上デジタル放送対応のため、4Kおよび8K撮影映像をフルHDに変換して放送されます。

BS-TBSでは、2021年2月27日（土）18:30～19:00に、地上波放送の未公開カットを加えた「ディレクターズカット版」の4K放送が予定されています。

EOS R5で8K撮影した映像



カムイワッカ湯の滝の上流の様子



知床の動物や風景

ヘリコプターから臨む色鮮やかな知床五湖や知床連山、大自然に生きるエゾシカ、サケが遡上する川の中の様子など、知床の雄大な景色や動物たちを、大空や水中などさまざまな視点から8K撮影しました。EOS R5の高感度性能やダイナミックレンジを生かした、濃淡の美しい知床の高精細映像を、ぜひご覧ください。

EOS R5の特長を生かした8K撮影の様子



ドローンによる空撮

防水ケースを装着した水中撮影

EOS R5は小型・軽量なため、ドローンに装着して8K撮影を行うことができました。また、通常、ファインダー撮影が難しい水中撮影では構図決めに時間がかかりますが、パリアングルモニター搭載のため、防水ケースに入れた状態でもスムーズに撮影を行えました。さらに、内部RAW収録が可能のため外付けレコーダーが不要で、現場へ持ち込む機材を削減することができました。8K撮影にかかる負担を軽減し、快適な撮影となりました。

「世界遺産」制作チーム小川直彦4K8Kプロデューサーのコメント



今回、キャノンの8K業務用カメラと、発売になったばかりのEOS R5の二つのシステムを持ち込み、知床の大自然の中で超高精細8K撮影を行いました。8K業務用カメラでは、8K非圧縮RAW収録というこれまで経験した中で最高品質の映像で撮影しました。知床五湖の紅葉が圧倒的な階調表現で色鮮やかに写し撮られています。EOS R5ではそのコンパクトさを生かし、ドローンに搭載してのダイナミックな空撮と防水ケースに入れたサケの遡上の水中撮影を行いました。知床の大自然をつかみ取った最高品質の映像美をぜひお楽しみください。

< TBSテレビ「世界遺産」とは >

1996年に放送スタートし、これまでに700以上の世界遺産を撮影・放送。世界遺産の普及に功績があったとして、2006年にユネスコから感謝状が授与されています。また2019年には、地理学の知識普及に寄与したことが認められ、日本地理学会賞社会貢献部門をテレビ番組として初めて受賞しました。

番組公式HP <https://www.tbs.co.jp/heritage/>

番組公式YouTube

https://www.youtube.com/channel/UCiBzP94GzT4C_aZ6-lw8zSA/featured?view_as=subscriber

～キャノンの8Kへの取り組み～

独自の光学・画像処理技術により、カメラ、レンズ、ディスプレイなど入力から出力まで幅広い8K機材の開発に取り組んでいます。昨年10月には、TBS「世界遺産」においてキャノンの8K業務用カメラによる初めての民放テレビ番組撮影が実施されました。また、今年7月には、8K動画撮影を可能としたミラーレスカメラ「EOS R5」を発売しました。さらに、機材だけではなく、その場にいるかのような臨場感や没入感を実現する「映像空間ソリューション」などの実用化にも取り組んでいます。

◆一般社団法人 電子情報技術産業協会 JEITA、電子情報産業の世界生産見通しを発表

2020年の世界生産額は2兆9,727億ドル対前年比2増で過去最高を更新、2021年もプラス成長が続き3兆ドル超えとなる見通し

ソリューションサービスは2020年、2021年と過去最高の世界生産額を更新し、初めて1兆ドルを超える見通し一般社団法人電子情報技術産業協会 JEITA: 代表理事 会長 石塚 茂樹 ソニー株式会社 代表執行役 副会長) は、本日、電子情報産業の世界生産見通しを発表しました。本調査は2007年より継続して実施しているもので、世界の電子情報産業の生産規模をデータにより明確にするとともに、世界における日系企業の位置づけを把握することを目的として、会員各社を対象としたアンケート調査の結果を取りまとめた推計しています。電子情報産業の2020年の世界生産額は、対前年比2増となる2兆9,727億ドルが見込まれています(*。新型コロナウイルス感染症の拡大により、電子機器の需要は全体的に急減速となりましたが、テレワークやオンライン授業の普及によるパソコン需要の増加、データ通信量の急増を背景としたデータセンター向け半導体需要の拡大、さらにはデータ活用の高度化によるソリューションサービスが増加したことから、世界生産額は微増にとどまる見込みとなりました。一方、2021年は、感染再拡大の懸念や先行きの不透明感はあるものの、ITリモートをこれまで以上に活用する動きが広がり、ソリューションサービスは1兆ドルを超えて需要の拡大が予想されること、また、自動車需要の回復や環境対応、5G端末の普及などにより電子部品・デバイスの伸長が期待できることから、世界生産額は対前年比7%増の3兆1,756億ドルとなり、初めて3兆ドルを超えて、過去最高の世界生産額を更新する見通しです。

2020年の海外生産分を含む日系企業の世界生産額は、35兆1,684億円が見込まれています2。感染症対策によりテレワークや遠隔授業の導入でパソコンや電子タブレット端末などの需要は増加したものの、自動車やスマートフォン向け需要の減少などにより、電子部品・デバイスなどの生産額が減少しました。国内生産額は、前年比5%減の9兆7,896億円が見込まれています>(*3。今後は「密」と「接」を軽減するため、あらゆる場面でITリモート技術の導入が進むことから、IoT機器やソリューションサービスの需要拡大が見込まれ、また、電子部品・デバイスも、5GやEV化などで日系企業の高性能部品に対するニーズが高まることから、2021年の日系企業の世界生産額は、対前年比3%増の36兆2,877億円でプラス成長に転ずる見通しです。国内生産額は、前年比4%増の10兆1,453億円の見通しとなりました。

電子部品やデバイス、電子機器やITソリューションを中核として、他の製造業やサービス業などあらゆる業種の企業が集う「Society 5.0の実現を支える業界団体」であるJEITAは、ニューノーマルを支えるデジタルトランスフォーメーションの担い手として、日本経済のさらなる活性化やSDGsの達成に貢献すべく、その責務を果たしてまいります。今後の取り組みにつきましては、随時発表いたします。

一般社団法人 電子情報技術産業協会 <https://www.jeita.or.jp/>
Japan Electronics and Information Technology Industries Association

*本発表は JEITA が発行した『電子情報産業の世界生産見通し 2020』(2020年12月発行)にその詳細が報告されています。併せてご覧ください。

『電子情報産業の世界生産見通し 2020』

[発行発行] 2020年12月

[編集編集] 一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA)

総合政策部会 / 調査統計部会 / 調査統計委員会 / 世界生産見通し委員会 / 世界生産見通し WG

*1 電子情報産業の世界生産額推移



2 日系企業の世界生産額数推移



3 電子工業の国内生産額推移



[価格価格] 会員 :3,300円 ((税込)), 会員外 : 6,600円 (税込)

【本件に関する企業 / 団体からの問い合わせ先】

一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA)

経営企画本部 政策渉外部政策渉外部 調査・統計室 (担当: 高瀬・小島)

TEL:03-5218-1051

【本件に関する報道関係者からの問い合わせ先】

一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA)

経営企画本部経営企画本部 政策渉外部 広報室 (担当: 吉田)

TEL:03-5218-1053 E-mail:press@jeita.or.jp

◆一般社団法人電子情報技術産業協会 JEITA：新型コロナウイルスの感染拡大防止に寄与する「IT モード」の世界需要額見通しを発表

● IT リモート市場の世界需要額は 2030 年には 228.3 兆円 となる見通し

● 市場の成長をけん引する利活用分野は「インダストリ」、「流通・物流」、「テレワーク」、「エンタメ・スポーツ」

一般社団法人電子情報技術産業協会 JEITA 代表理事 会長 石塚 茂樹 ソニー株式会社 代表執行役 副会長 は、本日、新型コロナウイルスの感染拡大防止に寄与し、今後の電子情報産業の成長をけん引すると期待されている「IT リモート」の世界需要額見通しを発表しました。

今回の調査は、IT リモートを「ネットワークを通じて離れた場所にいる人と人または物をつなげてコミュニケーションを実現するための技術」と定義し、国内外の関連企業・団体へのヒアリングをもとに定量的に推計したものです。

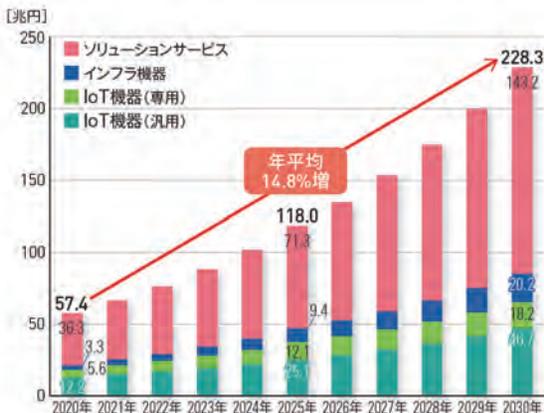
IT リモート市場の世界需要額は、年平均 14.8% で成長し、2030 年には 228.3 兆円と、2020 年と比べて約 4 倍に拡大する見通しです(*1)。感染防止の必要性から、「密」と「接」を軽減するため、テレワークや WEB 会議、遠隔医療、オンライン教育、遠隔操作、映像配信など、民生用途・産業用途を問わず、オフィス、病院、学校、スタジアムなど、さまざまな場面で、IT リモートの活用が広がっています。今後も新たなサービスが生まれ普及していくことが予想されることから、市場は右肩上がりに成長していく見通しです。日本国内も世界全体と同様の傾向で、2030 年には 12.8 兆円と、2020 年に比べて需要額は約 4 倍に成長する見込みです。

IT リモートによる貢献や効果が特に期待されている 8 つの利活用分野を抽出(*2)し、それぞれの分野で具体的なユースケースを特定して、そこで必要となる機器やサービスの利活用分野別需要額を推計した結果、2030 年において、世界で需要額の大きな利活用分野は、「インダストリ」、「流通・物流」、「テレワーク」、「エンタメ・スポーツ」の順に(*3)、日本で需要額の大きな利活用分野は、「インダストリ」、「テレワーク」、「流通・物流」、「エンタメ・スポーツ」

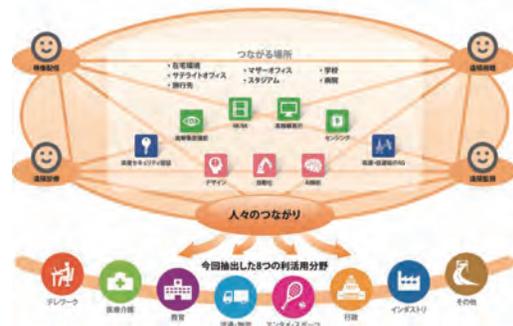
の順となりました(*4)。スマートファクトリーを実現するロボットをはじめ、工場や倉庫の自動化を支えるソリューションが市場をけん引する見込みです。また、今後、特に成長率が高いと予想される利活用分野は、「エンタメ・スポーツ」、「医療介護」、そして「教育」です。これらの分野は、規制改革や人材育成が進むことを前提に、今後大きな成長を見込んでいます。

電子部品やデバイス、電子機器や IT ソリューションを中核として、他の製造業やサービス業などあらゆる業種の企業が集う「Society 5.0 の実現を支える業界団体」である JEITA は、ニューノーマルを支える IT リモートならびにデジタルトランスフォーメーションの担い手として、日本経済のさらなる活性化や SDGs の達成に貢献すべく、その責務を果たしてまいります。今後の取り組みにつきましては、随時発表いたします。

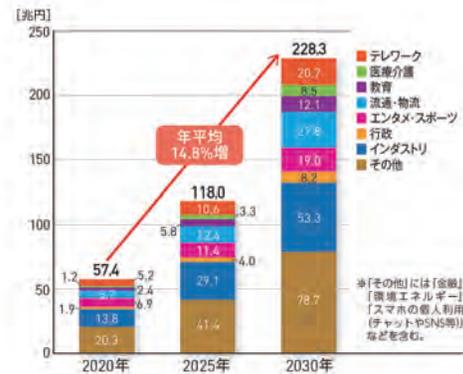
*1 世界の IT リモート市場の需要額見通し



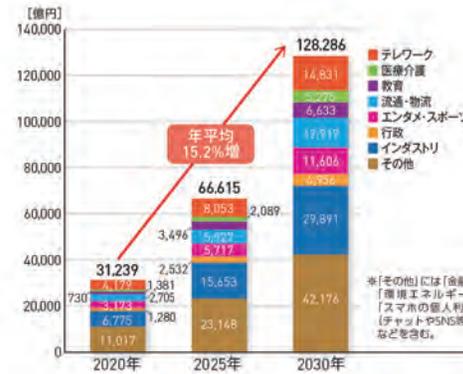
*2 IT リモート市場の利活用分野



*3 世界の IT リモート市場の利活用分野別需要額見通し



*4 日本の IT リモート市場の利活用分野別需要額見通し



一般社団法人 電子情報技術産業協会 <https://www.jeita.or.jp/>

※本発表は JEITA が発行した『注目分野に関する動向調査 2020』(2020 年 12 月発行) にそのにその詳細が報告されています。併せてご覧ください。

『注目分野に関する動向調査 2020』2020 年 12 月発行 [編集]

一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA)

総合政策部会 / 調査統計委員会 / 総合政策部会 / 調査統計委員会 / 注

目分野注目分野 TF

[価格] 会員 : 2,200 円、会員外 : 3,300 円

【本件に関する企業 / 団体からの問い合わせ先】

一般社団法人電子情報技術産業協会 ((JEITAJEITA))

経営企画本部 政策渉外部・調査・統計室 (担当: 高瀬・小島)

TEL:03-5218-1051

【本件に関する報道関係者からの問い合わせ先】

一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA)

経営企画本部政策渉外部 広報室 (担当: 吉田)

TEL:03-5218-1053

E-mail:press@jeita.or.jp

◆朋栄：Dejero と Rajant が協力し、2020 年米国大統領選挙のネット接続をサポート

携帯回線とメッシュ Wi-Fi により、ワシントン D.C. における主要放送局取材の信頼性を向上



株式会社朋栄（代表取締役社長：清原克明、本社：東京都渋谷区）が国内総販売代理店として活動している Dejero Labs Inc.（カナダオンタリオ州ウォーターラー、www.dejero.com）は、産業用ワイヤレスネットワークを提供する Rajant（米国ペンシルベニア州モルバーン、https://rajant.com）と協力して、ワシントン D.C. における 2020 年米国大統領選挙の報道をサポートした。Rajant 社の Wi-Fi メッシュネットワークと Dejero による携帯回線接続を組み合わせた接続ソリューションにより、潜在的な信号ドロップと通信ギャップを排除したことで、ニュース報道各社は携帯回線の輻輳の可能性を心配することなく、ホワイトハウス周辺から生放送することができた。

各国メディアにおいても大きな話題になった米国大統領選挙の報道は、米国報道機関やネットワーク放送局にとって 2020 年最大のイベントだった。全米各地でのライブ中継はもちろん、特に米国首都ワシントン D.C. からのライブ中継は、信頼性の高い接続環境が重要なポイントである。選挙当日は、米国内外の Dejero ユーザーの利用が約 6,000 時間になり、現場の機器数は約 60% 増加し、19TB 超のデータが送信されるという記録的な結果となった。これらの数字は、2016 年の米国大統領選挙のほぼ 2 倍になる。

今回、ワシントン D.C. に設置された Rajant 社の Kinetic Mesh® ネットワークを、Smart Blending 技術が特長の Dejero EnGo モバイル送信機で利用できるようにした。これにより、複数のネットワーク接続をリアルタイムかつインテリジェントに組み合わせ、信頼性の向上、利用地域の拡大、帯域幅容量の拡大を実現しました。Dejero で技術アカウントマネジメント担当グローバルディレクターを務めるジェレミー・ミラー（Jeremy Miller）氏は、今回の取り組みについて次のように話した。

「放送局にとって、大勢の人が集まる場所で特に混雑する可能性がある携帯回線は、選挙当日の夜の懸念事項でした。Rajant 社の小規模マイクロ波無線のメッシュネットワークは 5GHz と 2.4GHz の両方の Wi-Fi をシームレスに活用できます。今回、この Wi-Fi メッシュネットワークと、さまざまな携帯回線事業者が提供する複数の携帯回線をブレンドしました。携帯回線接続からの帯域幅が制限された場合に備えて追加のパスがあることを報道各社に知らせたことで、必要な場所で撮影できる柔軟性が生まれました。肝心の選挙当日夜のピーク時間でも途切れることのない報道を提供できました。」

Dejero は、大統領就任式の日もワシントン D.C. で、Wi-Fi メッシュネット

ワーク、機器レンタル、MultiPoint コンテンツ共有など各種サポートを提供する予定。

Rajant について

Rajant 社（米国ペンシルベニア州モルバーン、https://rajant.com）は、鉱業、軍事および救命救急、消防などの分野における Kinetic Mesh® ネットワークの堅牢性を活用し、放送分野も支援し続けている。Kinetic Mesh ネットワークは現在市場にある他のワイヤレスメッシュシステムとは異なり、あらゆるアプリケーションでシンプルで、瞬時に、失敗のない完全なモバイルブロードバンド接続を提供している。

◆ Dejero の接続性を活かし、FOX Deportes が在宅勤務で遠隔中継

コロナ禍対応のため、移動用ラックシステムでディレクター自宅ガレージに制作サブ構築



株式会社朋栄（代表取締役社長：清原克明、本社：東京都渋谷区）が国内総販売代理店として活動している Dejero Labs Inc.（カナダオンタリオ州ウォーターラー、www.dejero.com）は、米国スポーツネットワーク局 FOX Sports の一部門で、スペイン語での番組制作を担当する FOX Deportes（https://www.foxdeportes.com）が Dejero 製品を活用してコロナ禍における在宅勤務ワークフローを実現したと発表しました。

FOX Deportes は、新型コロナウイルスのパンデミック発生と同時に米国ロサンゼルス本社を離れて、在宅勤務ワークフローへと移行しました。同社は、オペレーションディレクターであるルーベン・ロカ（Ruben Rocha）氏のガレージに、1 週間足らずで一時的な制作サブシステム（Production Control Room=PCR）を構築し、主要な取材レポーターの自宅には 7 セットのモバイル中継用の移動用ラックシステムを設置しました。

ロカ氏は、ワークフロー構築について次のように話した。

「パンデミック発生以前に、対応する準備が整っていたので慌てずに対応できました。ガレージに一時的な制作サブを設置し、各レポーターは遠く離れたスペイン、アルゼンチン、メキシコなどの自宅から繋がりました。Dejero がリモート中継用に提供しているのと同じワークフローを、『自宅からのレポート』用に適用しただけです。放送センターを離れることと一時的な制作サブ構築は大変な作業のようですが、すでにワークフローを知っていたので非常に簡単でした。」ロカ氏のガレージにある制作サブからパブリックインターネットへの映像伝送は、信頼性の高い接続性を持つ Dejero EnGo をメインに使用している。制作サブには、4 つのポートを備えた 3 台の WayPoint レ



シーバーが、12チャンネルのライブストリームを同時に受信しており、それらを管理およびスイッチングしている。CuePoint リターンビデオサーバー 4台は、わずか 250 ミリ秒という非常に短い遅延で 8チャンネルのビデオとオーディオの返しを提供。そのうちの 1チャンネルはタレントへのキュー出し用にオンエア映像を流し、もう 1チャンネルはレポーターの背景グラフィックを配信している。レポーターのいる各ホームスタジオには Dejero PathWay エンコーダー

があり、制作サブからの指示を IFB で届け、ホームスタジオから制作サブにすべての映像素材を送っています。タレントは、スマートフォンやタブレットにダウンロードした Dejero LivePlus アプリを使用して、放送品質のビデオを作成し配信している。

FOX Deportes はこれまで、長年 Dejero 製品を活用して、さまざまな国や地域でリモート中継を行ってきた。

世界各地で行われる野球やサッカー、アメリカンフットボールなど主要なスポーツイベントの現場レポートでは、リモートプロダクション用の移動用ラックシステムに Dejero EnGo モバイルトランスミッ

ター、FlexPoint トランシーバー、PathWay エンコーダーを組んで使用されています。スタジアムにおける各イベントのライブ取材は、メイン、バックアップ、バストアップ、記者会見、サイドラインからのレポート、ドローンなど 8 系統の個別映像を、PathWay を使用してロサンゼルスに送っていた。また、メキシコシティにホームスタジオを設立した現地キャスターを、Dejero 技術によりサポートしたこともある。FOX Deportes はこれらの経験を活かし、新ワークフローをすばやく構築した。

ロカ氏は「Dejero の利用は、待ち時間や追加費用なしで国際的な番組を制作するには、非常に費用効果の高い方法。」と話しています。「私たちと同品質のホームスタジオを持つ人は、誰もいないのかもしれませんが、誰もが、私たちにどのように実現したのかとたずねてきます。Dejero は素晴らしいテクニカルサポートを提供しており、どこでもシンプルで費用対効果の高い、高品質な番組を制作可能です。」

【報道関係者からの問い合わせ先】 株式会社朋栄 マーケティング本部 広報部 出村・秋山・乳井・上島 TEL:03-3446-3528 FAX:03-3445-5116/e-mail:ad@for-a.co.jp

【製品に関する問い合わせ先】 株式会社朋栄 国内営業本部 TEL:03-3446-3121/FAX:03-3446-4451 e-mail:ad@for-a.co.jp

◆アストロデザイン：クリスマス・バーチャル・イベントに Chair Style Speaker を出展

8K オーケストラ演奏と 11.2 ch 音声を体感



アストロデザイン株式会社（本社東京都大田区、代表取締役社長：鈴木茂昭、以下アストロデザイン）は、2020年12月24日、25日の2日間にわたってクイーンズスクエア横浜 1F クイーンズサークルにて開催される「クイーンズスクエア クリスマス・バーチャル・イベント」に 8K11.2ch 音声対応

Chair Style Speaker Audio Heart 社製を出展した。「クイーンズスクエア クリスマス・バーチャル・イベント」は、コロナで苦境に立たされているアーティスト支援のために 2020 年 9 月から開催されているバーチャル版芸術フェスティバル「横浜 WEB ステージ」の一環として開催される無料プログラムです。アストロデザインが出展する Chair Style Speaker はタマゴ型のシェルの内部に 14 個のスピーカーを配置した、椅子型のサラウンドスピーカーです。オーケストラの演奏を 8K で見ながら 11.2ch 音声の没入感、臨場感を体験できます。本スピーカーは 2021 年 4 月以降、アストロデザインの開発協力による 22.2ch 音声対応を予定しています。会場ではその他にも半球状スクリーン「スフィ

ア 5.2」によるオーケストラを目の前にした指揮者体験や、アーティストの演奏を聴きながら横浜の名所をめぐる体験が行われた。
イベント概要

日時：2020 年 12 月 24 日（木）、25 日（金）

会場：クイーンズスクエア横浜 11 階クイーンズサークル

料金：無料（申込不要）

主催：横浜みなとみらいホール（公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団）/クイーンズスクエア横浜イベント実行委員会

共催：横浜市、横浜アーツフェスティバル実行委員会

協力：RamAir.LLCP RamAir.LLC、株式会社 tvk コミュニケーションズ、KDDI 株式会社、株式会社 KDDI 総合研究所

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底して開催します

アストロデザイン株式会社

超高精細映像技術、リアルタイム高速デジタル信号処理技術をベースに、8K をはじめとする高度な技術を要する分野において、さまざまなハードウェア/ソフトウェア製品を展開。放送業界やディスプレイ業界など映像業界全般において、オンリーワンの製品を提供し続けます。

【製品に関する問い合わせ先】

アストロデザイン株式会社

Tel.03-5734-6100 Fax.03-5734-6101



www.astrodesign.co.jp

◆ティアック：PlayStation®4 用ゲーム『十三機兵防衛圏』と TASCAM がコラボレーション。

アトラス x ヴァニラウェア デザイン完全監修によるヘッドホン & ヘッドホンスタンドの予約受付中。

ティアック株式会社（本社：東京都多摩市、代表取締役社長：英 裕治）は、数々の賞を受賞した PlayStation®4 用ドラマチックアドベンチャーゲーム『十三機兵防衛圏』とのコラボレーションによる、モニターヘッドホン『TH-06-13SAR』、ヘッドホンスタンド『HP-STAND-13SAR』をアトラス D ショップまたはティアックストアにて期間限定で予約受付中。

本ゲーム作品ファンのみならず、音楽制作の現場でモニターヘッドホンをご使用になる方も、ソリッドなデザインを施したこのヘッドホンで『十三機兵防衛圏』の世界を楽しみに。

品名 型名：モニターヘッドホン TH-06-13SAR 販売価格 ※10,800 円 予約期間 ～2021 年 1 月 11 日

発売予定日 2021 年 3 月中旬

品名 型名：ヘッドホンスタンド HP-STAND-13SAR 販売価格 ※5,800 円 予約期間 ～2021 年 1 月 11 日

発売予定日 2021 年 3 月中旬

※ティアックストアにおける税抜販売価格となります。



モニターヘッドホン『TH-06-13SAR』



モニターヘッドホンの TH-06 が十三機兵防衛圏仕様になって登場！

英語表記のロゴを配置。自宅ではもちろん出かける時も使える。

TH-06 の黒色に映えるシルバーを基調とした印刷で構成した。

パッケージは 13 人の主人公を余すことなく配置したデザイン。

ヘッドホンスタンド『HP-STAND-13SAR』

メタリックな箔を贅沢にあしらった高級感あふれるヘッドホンスタンド！白を基調に機兵とキャラクターのシルエットを印刷。13 の数字とタイトルロゴをホログラムレインボー箔で表面に仕上げたアクリル製ヘッドホンスタンド。



【製品サイト】 <https://tascam.jp/jp/product/13sar/top>

【販売・予約チャンネル】

『アトラス D ショップ』または弊社 EC サイト『ティアックストア』にて予約を承ります。

https://store.teac.co.jp/html/products/list.php?category_id=164

TASCAM は、確かな音質と高い耐久性で長年に渡り支持され世界中の放送・録音現場に導入されている。

その実績と経験を活かしプロフェッショナルのための音響に関わるトータルソリューションを提供するブランド。

(C) ATLUS (C) SEGA All rights reserved.

◆ティアック / 東武鉄道株式会社：TASCAM と東武鉄道が鉄道音源でコラボ。

ティアック株式会社（本社：東京都多摩市、代表取締役社長：英 裕治）が展開する業務用音響機器ブランド『TASCAM(タスカム)』は、東武鉄道株式会社（本社：東京都墨田区、社長：根津嘉澄）とのコラボレーションにて「SL 大樹乗車キャンペーン」で企画された、『SL 大樹の様々な「音」を収録した懐かしのカセットテープおよび配信用音源』の共同収録を行った。



また、「SL 大樹乗車キャンペーン」実施と連動して、今回の収録の様態をまとめた特設ページを TASCAM の WEB ページにて公開。

【鉄道録音特設ページ】 <https://tascam.jp/jp/contents/train/>

【収録で使用したハイレゾレコーダー DR シリーズ】



TASCAM リニア PCM レコーダー史上最良のオーディオパフォーマンスを誇る DR-100MKIII、可動式マイクを搭載し、狙った音の収録に適した DR-07MKII、手軽に高音質の収録が可能な DR-05。

【SL 大樹乗車キャンペーン】

<https://www.tobu.co.jp/sl/data/pdf/>

◆ソニービジネスソリューション：業界最薄最軽量* 厚さ 10cm、重さ 7kg の小型化と高輝度・高画質を実現 業務用レーザー光源プロジェクター 2 機種発売



3LCD レーザー光源プロジェクター [VPL-PHZ60] [VPL-PHZ50]

ソニービジネスソリューション株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：古田了嗣）は、会議室や教室用途に適した業務用レーザー光源プロジェクター『VPL-PHZ60』（6,000lm）と、『VPL-PHZ50』（5,000lm）の 2 機種を発売します。コンパクトな筐体ながらも 1.6 倍のズームレンズと広可動域の上下レンズシフト機能を搭載しており、投写距離や投影位置の自由度が広がる。また、インテリジェントセッティング機能により設置場所に応じた設定を自動で調整し、使用環境に適した映像を投影する。

*WUXGA 解像度の 3LCD プロジェクターにおいて、突起部・フィルターを除く。2020 年 11 月 19 日現在、ソニー調べ。

■商品概要

商品名：3LCD レーザー光源プロジェクター
(6,000 ルーメン/WUXGA:1,920 × 1,200 ドット)

3LCD レーザー光源プロジェクター
(5,000 ルーメン/WUXGA:1,920 × 1,200 ドット)

型番 [VPL-PHZ60] 発売日 2021 年 1 月 15 日
希望小売価格(税別) オープン価格

型番 [VPL-PHZ50] 発売日 2021 年 1 月 25 日
希望小売価格(税別) オープン価格

今回の 2 機種の発売によりソニーの業務用レーザー光源プロジェクターの商品構成は計 12 機種になる。多彩な機種の中から、広いホールや講堂、美術館などの展示施設、小規模の教室、会議室など、さまざまな設置環境や用途・予算に合わせた選択ができる。

■『VPL-PHZ60』『VPL-PHZ50』の主な特長

1. 6,000lm*1 のレーザー光源プロジェクターで、厚さ 10cm*2、重さ 7kg*3 のコンパクト筐体を実現

0.64 インチの小型パネルの採用で、厚さ 10cm、重さ 7kg のコンパクト筐体を実現しています。スペースが限られる会議室や中小教室での設置の自由度を高め、持ち運びも可能。

* 1 VPL-PHZ60 (6,000lm)、VPL-PHZ50 (5,000lm)

* 2 突起部とフィルター部は除く。

* 3 VPL-PHZ60 (7Kg)、VPL-PHZ50 (6.6Kg)

2. 色再現が問われる用途でも安心の高画質

レーザー光源の安定性と 3LCD 方式、LCD パネル技術、回路処理など総合力を生かした正確な色の再現性とグラデーション表現で、視覚的にも高画質を実感できる。さらに、LCD パネルにあわせて最適化されたソニー独自の超解像技術「リアリティークリエー



ション」により、質感や立体感をリアルかつ高精細に再現する。

3. プレゼンテーションの効果を高める“ブライト・ビュー”機能を搭載

入力映像信号をピクセル単位で検出し、各信号レベルに応じてダイナミックに最適な信号処理を行うことで、色再現性を保持しながらコントラスト感をアップし、明るい環境下でもメリハリのある映像を投写し、プレゼンテーションの効果を高める。

4. 投影設定アルゴリズム“インテリジェントセッティング”機能を搭載

プリセットされた 3 つの「設置場所」モードを選ぶことで、画質や光源出力レベル、冷却システムを自動的に調整し、使用環境に適した映像を投影する。明るい環境下での文字の視認性を重視した基本設定の「会議室 / 教室モード」や、より静音性を重視した「美術館モード」、コントラストを高めたインパクトある画質を再現する「娯楽施設モード」など、さまざまなシーンに応じて簡単に設定ができる。

5. 広いレンズシフトと「ブレンド・イン」デザインによる柔軟な設置性

上下方向 -35%~ +55%、左右方向 ± 15% のレンズシフト機能で、天井の高い位置にもすっきり設置できます。また、フラットで白い天面を採用し、厚みも 10cm と薄いデザインは、白を基調とした天井に溶け込むような印象になる。

6. 4K 30P 入力に対応し、幅広いコンテンツの投写が可能

プロジェクター内部の最新の信号処理技術により、入力された 4K 30P の信号を画像劣化の少ないフルハイビジョン信号に変換して投写できる。これにより、4K コンテンツを分配して他の 4K フラットパネルディスプレイと併用することができる。

■主な仕様

主な仕様や詳細については、商品サイトをご覧ください。

[VPL-PHZ60] <https://www.sony.jp/vpl/products/VPL-PHZ60/>

[VPL-PHZ50] <https://www.sony.jp/vpl/products/VPL-PHZ50/>

市場推定価格(税別)：『VPL-PHZ60』65 万円前後・『VPL-PHZ50』50 万円前後

※「市場推定価格」は、発売前の製品について、市場での販売価格を当社が推定したものです。

なお、製品の実際の販売価格は、各販売店により決定されます。

※記載されている製品名等は各社の登録商標あるいは商標です。

ソニービジネスソリューション株式会社

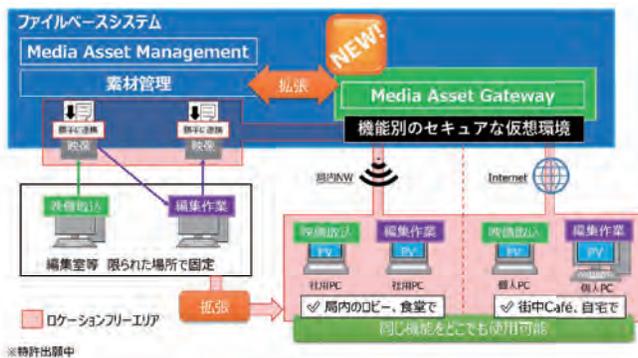
URL <https://www.sonybsc.com/>

ソニー製品情報 URL <https://www.sony.jp/professional/>

データプロジェクター URL <https://www.sony.jp/vpl/>

◆パナソニック システムソリューションズ ジャパン： ロケーションフリーな番組制作システムを開発した

パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：片倉 達夫、以下パナソニック）は、放送局向けにロケーションフリーなコンテンツ制作を実現する番組制作システム（以下、ロケーションフリーな番組制作システム）を開発した。ニューノーマル時代に即した、作業場所にとらわれない番組制作を実現し、放送局の「いかなる環境においても放送を継続する」というミッションと働き方改革の両面からサポートする。受注開始は2021年4月を予定している。



現在、放送局の番組制作は、複数の編集者が役割分担し、オフィスの編集室などに設置された編集システムで作業がおこなわれています。自宅やサテライトオフィス・カフェなどリモートでの編集作業を可能にするためには、システムのクラウド化などが考えられるが、様々な課題やセキュリティリスクが想定される。たとえば、撮影素材を可能な限り社内環境で管理したいという意見や、放送時間までに作業を完了するスピード感の実現、局内にある撮影素材の速やかな編集業務の開始・終了、放送局独自の素材管理システムや報道支援システムなどとのスムーズな連携の実現、という業界ならではの課題をかかえている。

パナソニックは、長年にわたる放送システムの開発で得た知見・ノウハウやお客様の声をもとに、番組制作ワークフローのコアとなるファイルベースシステムと連携する、ロケーションフリーな番組制作システムを開発した。セキュアなアクセスで既存の編集システムとの連携を可能にすることで、現在のワークフローと同等のスピード感での作業を実現するとしている。

パナソニックでは、今後も制作現場に寄り添ったシステムをご提案することで、ニューノーマル時代に即した環境づくりに貢献し、放送業界のより良い未来の実現を目指していくとしている。

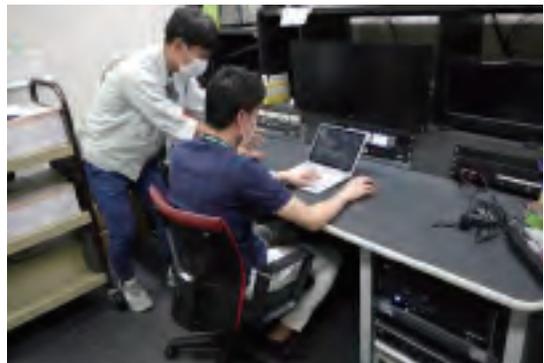
そして放送業界の経営課題に向き合い、放送という情報社会インフラの永続的な安心・安全の維持・発展を支え続ける。

■主な特長

1. 素材管理システム（MAM = Media Asset Management）アプリケーションを含めた仮想環境を構築し、局内環境と同等の編集作業をリモートアクセスで実現。

2. 2段階認証などセキュアなリモートアクセスによる安全性と、放送局独自システムとの連携を両立し、編集後即座にオンエアすることが可能。
3. 撮影素材は全て局内のシステム上に保存されているデータを使用し、素材流出のリスクを削減。

なお、実証実験を東海テレビ放送株式会社（本社：愛知県名古屋市、代表取締役社長：小島 浩資）と実施し、効果を実際に体感いただいています。クラウドを利用したニュース映像制作の編集テストと比較し、素材の検索とアップロードに関わる作業時間が最大80%減少したほか、編集後の作業についてもオンエアに関わる取込み作業など、局内システムと変わらないワークフローで実現できることを確認しました。



<記者用パソコンを使用してリモート編集>



<リモート先からオンエア書出しまでを実現>

<東海テレビ放送株式会社>

「昨今の新型コロナウイルス拡大の状況において、報道現場、報道編集でも感染防止対策の一環としてリモートワーク（リモート編集）ができないか、クラウドやオンプレミスなど様々なシステムで検証しました。パナソニックのロケーションフリーな番組制作システムは当社の報道支援システムと連携を図ることができ、リモート環境でも局内と同じ操作で実編集機と連動した共同編集ができること、また、新たにクラウドで設計するよりも、現用システムを直接操作できるので特別なトレーニングが不要なことも体感でき優位性が高いと感じました。今後も放送局に寄り添った、よりセキュアで利便性を向上させるソリューションを期待しています。」と語った。

▼パナソニック 放送・CATV ソリューション

<https://biz.panasonic.com/jp-ja/solutions/broadcast>

◆パナソニック：クラウド上で映像制作が完結できるシステムをソフトバンクと共同開発 パナソニック開発のIT/IPプラットフォーム「Kairos※」を活用

撮影から制作・編集までの工程をIPで実現した番組が、地上波で放送。クラウド上で映像制作が完結できるシステムをソフトバンクと共同開発。パナソニックの新開発したIT/IPプラットフォーム「Kairos※」を活用。

パナソニック株式会社（本社：大阪府門真市、代表取締役社長：津賀一宏、以下「パナソニック」）の社内分社であるコネクティッドソリューションズ社（本社：東京都中央区、社長：樋口 泰行）はソフトバンク株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員 兼 CEO: 宮内 謙、以下「ソフトバンク」）と協力して、クラウド上で映像制作を完結できるシステム（以下「本システム」）を共同開発し、地上デジタル放送での共同検証を実施した。本システムは、ICT（情報通信技術）を活用して映像制作をクラウド化し、撮影から制作、編集、配信までをシームレスに行うことを定義した概念「Broadcast as a Service」を実現するものである。

近年、インターネット配信の増加などにより映像コンテンツの需要は拡大しているが、映像制作の人材不足に加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、現場集中型のワークフローが課題となっている。また、近年の映像コンテンツの高度化による制作機材のコスト増加が放送局や映像制作会社の負担となっており、映像制作のプロセス改革が求められている。AV技術に強みを持つパナソニックと、ネットワーク技術に強みを持つソフトバンクが協力することで、遠隔地からクラウド上で映像制作を完結できる本システムを共同開発した。

本システムは、ソフトバンクのデータセンターにある映像制作システムに、パナソニックの新IT/IPプラットフォーム「Kairos」（ケイロス）を導入して、パナソニックの放送用ネットワークカメラを活用し、撮影現場とデータセンターをIPネットワークで接続することで、撮影から編集までの工程をIPで実現している。これにより、事前収録した映像素材やライブ映像をソフトバンクのクラウドサーバーにアップロードすることで、別の場所から遠隔操作・映像編集を行うといった分散型のリモートワークフローを実現して、従来よりも効率的に映像制作を進めることが可能となる。

両社が制作会社に本システムを提供して、事前収録から制作・編集までをクラウド上で行った番組が、2020年12月18日から地上デジタル放送で順次放送された。

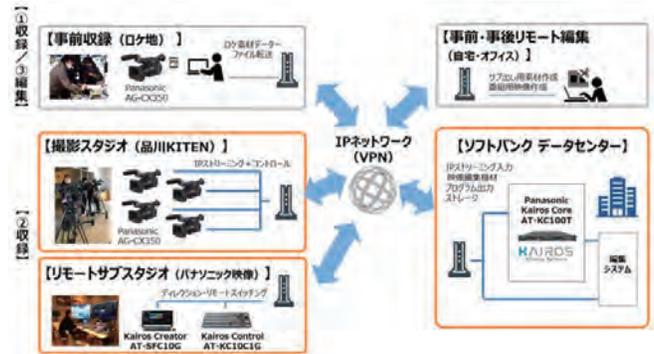
パナソニックは今後も現場に密着した課題解決に尽力し、映像制作現場における「現場プロセスイノベーション」の実現に貢献している。

【本システムの特長】

- (1) 従来の現場集中型から分散型のワークフローにすることで、効率的な映像制作、低コスト化に貢献
- (2) 移動時間や作業待ち時間の削減、制作・編集作業の並列処理など制作現場の働き方改革を実現
- (3) 制作機材を保有する必要がなくなり資産圧縮が可能のため、放送局や映像制作会社のコスト削減を後押し

※ IT/IPプラットフォーム Kairos（ケイロス）：パナソニックが開発して2020年9月に販売開始した、プロスポーツ、コンサートなどの各種イベントおよび放送局の映像制作・会場演出・映像配信の用途に向けて、ライブ映像制作のクオリティと生産性を飛躍的に向上させる次世代ライブ映像制作システム（https://panasonic.biz/cns/sav/products/it_ip_platform/）

<共同検証イメージ>



【(1) 収録 (事前)】

パナソニック製放送用ネットワークカメラ (AG-CX350) で事前収録。収録した映像データをファイル化し、データセンターへアップロード。遠隔地からアップロードした映像データにアクセスし、事前に編集。

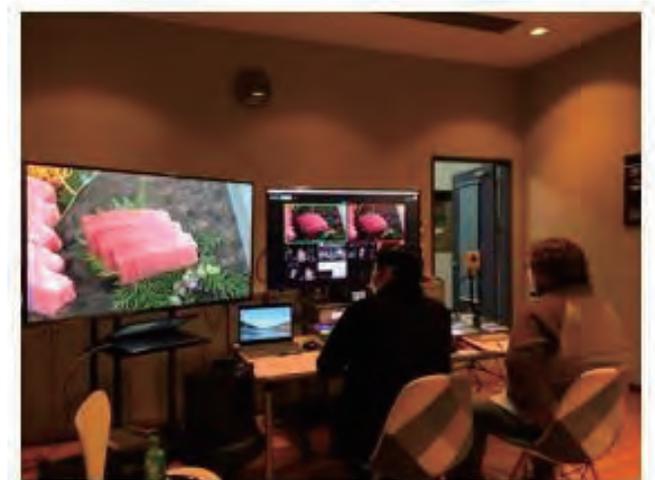
【(2) 収録 (当日)】

スタジオにて4台のカメラで撮影した映像を、ストリーミングでデータセンターへ入力。事前収録映像と併せて、遠隔地のサブスタジオから映像をスイッチング。

【(3) 番組映像編集】

遠隔地から収録した映像データにアクセスして編集。番組用映像データを作成。

<共同検証写真 (収録当日) >



撮影スタジオ



リモートサブスタジオ データセンター Kairos (データセンター内)

・SoftBank およびソフトバンクの名称、ロゴは、日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。

・その他、このプレスリリースに記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。

◆ブラックマジックデザイン:ディズニープラス映画「セイフティ〜最高の兄弟」の制作およびポストプロダクションに DaVinci Resolve Studio ワークフローを使用



Blackmagic Design は、ディズニー映画「セイフティ〜最高の兄弟」の制作において、撮影から最終出力までの全過程に DaVinci Resolve Studio ワークフローが使用されたことを発表した。このワークフローでは、Blackmagic Design のスイッチャーやレコーダー、ルーター、モニターを中心として構築された革新的なデジタル資産管理 (DAM) システムが導入された。同作品は今年、ディズニープラスで公開された。

「セイフティ〜最高の兄弟」は、元クレムソン大学フットボール部のセイフティ、レイ・マクラスピーの力強い物語から着想されたドラマ。数々の困難に直面するも、持ち前の献身性と粘り強さで逆境に立ち向かう若者をジェイ・リーヴス (Jay Reeves) が演じた。チームメイトと大学のコミュニティーにも助けられ、レイは 11 歳の弟であるファーマーを育てながら、フィールドでも成功を収める。弟役を演じたのはタデウス・J・ミクソン (Thaddeus J. Mixson)。2020 年のパンデミック以前から、撮影現場およびポストプロダクションを効率化して費用対効果を高めることは、予算が限られた制作において最優先事項かつ必要不可欠なテーマとなっていた。エグゼクティブ・プロデューサーのダグ・ジョーンズ (Doug Jones) 氏は、撮影現場の技術的なワークフローを改善し、撮影とポストプロダクションの間に存在する不要な障害を取り除き、エディターが制作に携わりやすくすることが、この問題に対する実践的な答えであると考えていた。

新しいテクノロジーの導入に積極的であるジョーンズ氏は、早期から映画制作の完全デジタル化を推進していた一人であり、テクノロジーは受け入れるべきものであると常に感じていた。今作で導入された DAM ワークフローは、放送の制作に使用されるツールの多くが劇場映画の制作にも使用可能であるという理解からアイデアを得たものだ。ジョーンズ氏は、撮影現場に統合された Blackmagic ハードウェアと DaVinci Resolve を組み合わせることで、常時オンラインのパイプラインを構築でき、時間も費用も削減できると考えた。

制作チームは、監督のレジナルド・ハドリン (Reginald Hudlin) 氏、撮影監督のシェイン・ハールバット (Shane Hurlbut) 氏、エディターのテレル・ギブソン (Terel Gibson) 氏と協力して、制作を

効率化するパイプラインの輪郭を描いた。「過去 100 年以上にわたり、映画制作では多くのことが試行錯誤されてきました。それらは大変素晴らしいものであり、大切にすべきものです」と、ハールバット氏は話す。「そして現在、その枠組みをひっくり返すような技術が登場しています。これまでの流れを変えるようなものです。このデジタルアセット管理システムによって、プリプロダクションから撮影、ポストプロダクションまでの過程を完全に統合できることをダグ・ジョーンズ氏から説明された時は、非常に驚きました。」



彼らが構築したプロセスはシンプルで、撮影現場のオペレーターが一人で管理できるものだった。撮影用のカメラが回ると、DAM カートに搭載された複数の Hyperdeck Studio Mini レコーダーが自動的にトリガーされ、同一のタイムコードで同時に収録が始まり、再生可能なフッテージが瞬時に作成された。また、同じビデオフィードが撮影現場の DaVinci Resolve でライブグレーディングされ、ビデオレヅジまたは離れた場所にいるクリエイティブたちは、未処理のイメージではなく、カラー処理が施されたフッテージを確認できた。安全なクラウドサービスにアップロードしたデイリーは、カラー処理され、撮影現場とリモートロケーションで各日二度確認された。ライブイメージおよび録画したショットは、ATEM 1 M/E Production Studio 4K スwitchャーと Teranex Mini SDI Distribution 12G ボックスを経由して、撮影現場のどこでも見ることができた。オーディオの管理には Blackmagic Audio Monitor 12G が使用された。

監督や撮影監督など、ポストプロダクションにも影響を及ぼす意思決定者たちは、クリップにメモを残すことで、DAM カートから編集過程にメッセージを直接伝達できた。さらに、脚本監修者のメモもメタデータに追加して編集過程に持ち込むことができた。カメラからのオリジナルショットは、ストレージカードから高速 RAID ドライブに直接ダウンロードされ、ポストプロダクションが行われている場所に各日数回運ばれた。

ハールバット氏は、スタジオを含むあらゆる過程で明瞭なコミュニケーションが取れたことを高く評価した。「カメラからのメタデータをすべて RAID システムに取り込み、ショットをディズニーに送信して、全員が同じレベルでコミュニケーションできました。同じ日のデイリーを確認することで、スタジオと作品のつながりを強く感じることができました。」この包括的なシステムによって、各制作過程のクリエイティブたちは、自分たちが作品とつながっていることだけでなく、直接的に関与できることを実感できたのだ。ハールバット氏はこれが極めて重要だったと考える。

「このシステムでは、その日に撮影したデイリーをスタジオのスタッフに見せることができるので、彼らと相談して意思決定を行うことができました。例えば、私たちはアトランタで撮影を行い、昼食時と撤収時にすべてのデイリーを処理しました。西海岸のスタジオにいるスタッフは、現地時間の4時、つまり帰宅時間の直前にデイリーをチェックしました。彼らは監督のレジナルドや他のプロデューサーとも話すことができました。誰とでもコミュニケーションできたのです。その結果、制作に関わる全員が自分に発言権があると感じることができ、クリエイティブな過程の一員であると実感できたのです。」

編集は撮影初日から開始され、撮影とポストプロダクションが交流する独特な同時進行プロセスとなった。エディターのテレル・ギブソン氏は、撮影が行われているのと同じ建物内に編集室をセットアップした。「カメラの近くで作業できたのは非常に良かったですね。」ギブソン氏は編集のすべてを DaVinci Resolve Studio で行った。



実質的に編集は撮影現場で開始された。デジタルアセットマネージャーのマイケル・スモリン (Michael Smollin) 氏が DaVinci Resolve を使用して、オーディオとカメラファイルを同期させ、非破壊的カラーコレクションを適用して、編集タイムラインを作成した。「デイリーは撮影現場で出力され、システムに取り込まれました。従来のワークフローより高速でした。RAW デイリーを使用できたので、トランスコード処理は不要でした。ラボで作業したのと同じことですね。」第一アシスタントエディターのラーフル・ダス (Rahul Das) 氏は、Resolve への完全な移行を喜んだ。

「Resolve についてより多く学びたいと感じていました。編集からフィニッシングまですべてカバーするソフトウェアとして急速に進化していて、ラボが不要になるからです。このプロジェクトの開始当初、Resolve に搭載された各パネルがカラー、サウンド、ビジュアルエフェクトなど専用のページとして分かれていることに感銘を受けました。しかし、最初は大変そうにも感じました。従来のオフライン編集では、VFX やサウンドデザインに関して私たちに求められるのは、一時的な参照作業だけでした。しかし Resolve では、グリーンバックのキーイングなどのシンプルな VFX 作業や、アニメーションにおいて、ある程度のノウハウが必要であると感じたからです。しかし、Resolve のインターフェースは非常にユーザーフレンドリーなので、短期間で多くのことを学ぶことができました。」

デイリーは各撮影日の開始から6時間以内にはチェック可能な状態となり、16時間以内には完全なデイリーがアップロードされた。

編集は常に撮影から6時間以内に開始されたため、スタジオを含むあらゆる段階において、変更やメモに対する応答性が高まった。一般的なオンセットツールでも基本的なカラー調整は可能だが、さらに進化したこのデジタルアセット管理ソリューションでは、撮影現場の必要に対してすばやく、直接的かつ高品質に対応できたため、多くの問題はそこで解消された。スタジオで待機する重役になるべく早くデイリーを見せ、その結果として要求されたカラーの変更を撮影現場で適用し、再度スタジオに送信して承認を得るという、シームレスで迅速なワークフローだった。

このようなスピーディなワークフローによって、エディターは撮影当日から編集室に届いたシーンの組み立てを開始できた。場合によっては、まだ一部のショットの撮影が終わっていないシーンの編集を開始することもあった。ラフカットのチェックは、撮影日の最後または翌日の朝に行われることが多かった。「今回のプロジェクトほど、自分とカメラが近い関係にあると感じたことはありません」と、ギブソン氏は言う。

フィニッシングの過程では、コラボレーションが非常に上手く機能した。各チームメンバーが同じ未処理のデータセットで作業を行ったため、全員がフィニッシングの一部となった。例えば、ショットにカラーが適用されると、編集室にはデータ更新を要求するメッセージが届き、新しいカラー変更を即座に確認できた。「誰かがカラーを適用したり、誰かが何かを編集したり、VFX がショットに追加されたり、新しいトラックのサウンドデザインが完成したりすると、すぐに通知が来てそれらを確認できました」と、ハールバット氏は話す。「ひとつのコミュニケーションチャンネルを通して、全員がすべてをライブで確認できました。」



「セーフティ〜最高の兄弟」について

「セーフティ〜最高の兄弟」の主な出演者は、ジェイ・リーヴス (Jay Reeves)、タデウス・J・ミクソン (Thaddeus J. Mixson)、コリンヌ・フォックス (Corinne Foxx)、マシュー・グレイヴ (Matthew Glave)、ハンター・サンソーネ (Hunter Sansone)、ジェームズ・バッジ・デール (James Badge Dale) など。監督: レジナルド・ハドリン (Reginald Hudlin)、プロデューサー: マーク・シアードイ (Mark Ciardi) & ゴードン・グレイ (Gordon Gray)、脚本: ニック・サントラ (Nick Santora)。エグゼクティブ・プロデューサー: ダグラス・S・ジョーンズ (Douglas S. Jones) & キャンベル・マッキンズ (Campbell McInnes)。

www.blackmagicdesign.com/